

患者さまへのお知らせ・お願い

ロビーコンサートのお知らせ

- 5月24日(火) 川瀬 まり子さん(バイオリン演奏)
中央棟1階会計前ロビーにて、19:00より開催いたします。30分間の演奏会です。
是非、お越しください。

患者様からのご意見・ご要望

日々患者さまより頂きましたご意見・ご要望に関しては関連する部署の責任者に報告しております。改善すべき点や取り入れたほうが良いことなど出来る限り対応したいと考えております。ご意見の中で特に危険なこと、多くの方が希望していることを優先に対応したいと考えております。もちろん少数意見も対応させて頂いております。

前回に引き続き、今までのご意見の中で多くいただいたものや最近よくいただくご意見・ご要望を中心に改善策を掲載させていただきます。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせください。(=進捗報告)

ご意見・ご要望	改善等
中央棟西口の公道への誘導について	中央棟西口からスロープを下った場合、駐車場に行けるだけで公道に抜けられるかが分からないのご意見をいただきました。 初めてご利用の方には当院の駐車場や敷地内の乗降場所等は構造的に複雑で分かりづらいことと思われます。掲示板等を増加させ施設内の車の動線等が分かりやすくなるよう検討させていただきます。なお、中央棟西口からスロープを降り公道に出ることができます。また、駐車場は誤って入場したり、ご家族等の乗降に駐車場を利用した場合でも、利用料金がかからないよう30分までは無料になっておりますのでご利用ください。
救急外来の受診について	『救急車で来ようと思いましたが恥ずかしかったので家族に車で救急に送ってもらいましたが、救急で1時間も待たされました』のご意見をいただきました。 お待たせて申し訳なく思います。しかしながら、時間外休日は医療スタッフ等限られた中で行われていることから、他の救急対応等の為にお受けしても大変お待たせしてしまう場合がございます。重症の場合は救急車を呼んでいただき適切な医療機関に搬送していただくのがよろしいと思いますが、それ以外の方法で来院される場合は、来院前にお電話をしていただけますようお願いいたします。混雑しておりお待ちになるような場合は他の医療機関等もご案内いたします。 当院および横浜市・地域の時間外休日の診療体制についてご説明させていただきます。 当院は地域の中核病院として、主に救急車で搬送される二次(重症)救急患者様の対応を中心に夜間休日の診療体制を整えております。また、二次救急は横浜市全体もしくは医療圏毎(当院は北部地域：都筑・青葉・緑・港北・神奈川・鶴見区)に当番制になっており、救急車は当日の当番病院を中心に搬送を行うこととなります。当番日には医療スタッフは通常以上の配置をし、万全な診療体制を整えていますが、その場合でも多くの患者様や重篤な患者様がいらっしゃると他の診療受入は困難となり、横浜市および近隣医療圏で対応することとなります。また、比較的軽度の患者様は夜間急病センター等で診療を行っており、その施設で対応困難という場合には当院のような二次救急病院に受入要請が入ります。 特に時間外休日につきましては限られた地域の医療資源の中で診療を行っていますので、患者様のご病状に合わせて適切な医療機関の受診とルールを守っていただけますようご理解と・ご協力をお願いいたします。
リスク/提案カードの変更について	現在、院内には、ご意見・リスク/提案カード回収箱を24箇所に設置しております。開院以来の記載用紙の在庫が終了し、順じ記載カードの変更をおこなっております。また、係の者が原則として、毎週1回の回収を行っておりますが週に1回では少なすぎるというご意見があり、中央棟1階総合案内のボックスのみ毎日回収を行いますのでご利用ください。

編集後記

横浜市北部地域の中核病院として当院が開院し、4年が過ぎました。病院裏の公園の桜を眺めることも4回目。その間に開院時は428床だったベッドの数は661床に増えました。初めは人影がまばらで寂しい感じのした公園にも、今年の桜の季節には多くの人たちが訪れ、ひなたぼっこを楽しんでいました。病院の渡り廊下から眺める景色も季節により変化し、ちょっとした息抜きになっているようですね。
さて、ここでひとつPRを。5月12日はフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ看護の日に制定され、各地でイベントが行われています。当院でも5月14日(土)に看護フェスティバルを行いますので、次号ではその内容を御報告できるかと思えます。健康相談なども行っておりますので、今年逃した方は来年是非のぞいてみて下さいね。
広報委員会 委員 大崎千恵子

北部病院だより 第31号

平成17年5月10日発行

発行責任者 田口 進(昭和大学横浜市北部病院長)

編集責任者 島田 誠(広報委員会 委員長)

発行 昭和大学横浜市北部病院

〒224-8503 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話 045-949-7000(代表)

URL : <http://www10.showa-u.ac.jp/~hokubu/>

北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』が参照できます。

北部病院だより 第31号

第31号【2005/05/10 発行】

発行者：昭和大学横浜市北部病院

巻頭言

『エビデンスを構築し新しい医療を創造する』

産婦人科 助教授 小川 公一

イベント情報

平成17年度入職式

医療安全対策特別講演会

医師の配属・異動・退職

臨床研修医の紹介

病院からのお知らせ

ピアノコンサート日程

患者様からのご意見・ご要望



あやめ・かきつばた・菖蒲の似合う季節になりましたね。

巻頭言

『エビデンスを構築し新しい医療を創造する』

近年、医学は急速な進歩を遂げており、それに伴い多くの臨床医は診療において実践的な、それも特に技術的な面を中心に追い求めているのが昨今の傾向のように思われます。しかしながら臨床現場では、インフォームドコンセントあるいはQOLなどと、患者様から医師への要求はいわゆる病気が対象ではなく、人間を対象としての治療を期待されています。そのような状況下にある現在、臨床医は技術ばかりでなく、その診療の裏づけとなる科学的な根拠に基づいた診療を目指さなければなりません。臨床現場では根拠ある診断・治療を行うためのエビデンスが、コンセンサスとして求められ、治療にあたっては常にエビデンスに裏付けられた標準的治療とエビデンスのない経験的治療を明確に意識し、患者さまに対してもその説明を行うことが求められる時代となりました。

科学技術の進歩を背景にして、産婦人科学は学問として、医療技術として高度ものへ変化を遂げてきました。産科学は、子宮という密室にいる胎児へのアプローチができなかったため、分娩の介助学とも考えられ、妊娠分娩産褥の母体管理が中心でありました。近年、胎児心拍の解析さらに超音波診断の進歩により、胎児の情報が得られるようになり、母体よりも胎児の状態を中心においた周産期学へと変貌を遂げました。婦人科腫瘍学においては細胞診の普及により子宮癌の早期発見、治療は標準的な手術に加え、放射線療法と化学療法の開発・進歩により術前・術後化学療法、放射線療法、化学放射線同時併用療法等と選択肢が増え治療率が高まりました。卵巣癌に対する治療においては、手術療法における cytoreduction (腫瘍減量手術)の重要

性が認識され、また化学療法においてはプラチナ製剤・タキサン系抗癌剤の登場があり、国内外で多くの臨床試験が行われ、新しいエビデンスが積み重ねられ、卵巣癌治療ガイドラインが作成されました。生殖内分泌学においては受精、着床、妊娠維持機構が解明され、体外受精・胚移植の成功と普及は不妊治療に革命をもたらしましたが、他方新たな倫理的問題という難題を残しました。手術学においては良性疾患を中心に多くの疾患に対して内視鏡下手術が施行可能になり、患者さまに大きな福音をもたらしました。臨床現場では産婦人科領域においても evidence based medicine (EBM) という用語が盛んに用いられるようになりました。EBMの定義には種々のものがありますが、医療技術評価委員会は「診ている患者の臨床上の疑問点に関して、医師が関連文献等を検索し、それらを批判的に吟味した上で、患者への妥当性を評価し、さらに患者の価値観や意向を考慮した上で臨床判断を下し、専門技術を活用して医療を行うこと」としています。この行為は、従来われわれが医療のあるべき姿として考えてきたものと本質的に異なるものではありません。各種治療法の効能を推計学的解析を基盤とする比較対照試験をエビデンスとして診断・治療の方針に取り入れることがより科学的であるとの考えが注目されるようになりました。しかし、現実の診療において「100%EBMを実践できていたか？」と省みたとき、「まだまだ修行が足りない」と思うのであります。一方、厳密な意味でエビデンスが示されているのはほんのわずかであり、「毎回患者さまの疑問に答えられるエビデンスを用意できるものではない」と思うのであります。そこで、我々は患者さまから直接あるいは間接的に発せられる疑問を「勉強の良い機会」として考えるようにしています。我々の仕事は、産婦人科領域においてエビデンスを網羅し、既存の治療方針と照合し、両者を融合させ実践的で最適なガイドラインを作成することです。ガイドラインの目的とするところは、日常診療に携わる医師に対して、現時点で広くコンセンサスがえられ適正と考えられる治療法を示すこととあります。すなわち、診療上の参考に供するものであって、これにより医師の裁量権を狭めたり、治療法自体に制約を加えるものではなく、治療結果に対する責任は直接の治療担当者に帰属すべきものであると思います。

EBMは既にエビデンスが存在し、これをどのように使うかです。いかに効率的に医療を患者さまに適應するかが求められます。一方、臨床研究はいかにエビデンスを構築し、医療に還元するかを考えます。新しい治療は標準治療より有効なのかどうか、効率より効果が重要です。EBMは個人からはじまり個人に帰るものですが、臨床研究は集団からはじまり集団に帰るものです。EBMはクリニカル・エビデンスをいかに上手に使うかの方法論であり、臨床研究はクリニカル・エビデンスをいかに上手に作るかの方法論です。われわれの目指すものは、EBMを実効できることはもとより、臨床研究を行いエビデンスを構築し、新しい医療を創造することです。患者さま個々に効率的な医療を施すに加えて、全体に対してより効果的な医療を提示することにより、多くの患者さまに適切な医療を提供することができると考えています。

北部イベント

平成17年度入職式

西棟 4 階 講堂

4月1日(金)13時より西棟4階講堂にて北部病院入職式が執りおこなわれました。田口進病院長より、北部病院の基本理念のお話し、北部病院で働くに際しての心構えや皆と相談しながら働ける環境を共に作って行きましょうとの挨拶があり、続いて各部門長紹介がありました。

翌2日(土)には、医療事故防止対策についての講義、入職式の恒例となっている都筑警察署の兼田署長より防犯についてのお話と防犯のための護身術についての実技指導、職員(社会人として)の常識でもある、接遇マナーの話がありました。午後は、各所属部署でのオリエンテーションとなり、看護部では先輩の挨拶や部署配置発表等があり、臨床研修医は院内感染対策の講義や採血手技等の指導を受ける機会となりました。

その後、研修医は2週間のオリエンテーション、コメディカルは各部署毎のオリエンテーションや実技指導等を受ける期間となりました。また新入職員を対象として、4月12日(火)には消防訓練が実施されました。

ちょっと余談ですが、新年度になって全教職員のユニフォームを一新いたしました。皆さま、お気付きになられましたか？



医療安全対策特別講演会

西棟 4 階 講堂

4月26日(火)午後6時より、西棟4階講堂におきまして全職員を対象に医療安全対策講演会を開催いたしました。東京慈恵会医科大学医学教育研究室の福島統教授をお招きし『異職種間コミュニケーション～医療の安全管理への慈恵医大の試み～』という演題で、東京慈恵会医科大学で実際に発生した事故例をもとに講演いただきました。

医療事故は単純に個人の問題でなく病院組織、他部門との連携やチームワーク等様々なことが原因として発生するものであり、また、偏ったスタッフの中では問題点等が見落とされることがあるということでした。東京慈恵会医科大学では、多職種でワークショップを行い一つの事例を検討することを行っています。ワークショップのグループの中には医学生や看護学生なども混ざり職種を越える様々な意見が交わされるとのことでした。

ワークショップの中で、一つの事故事例について検討された際に、まずこのことについて第一に頭に浮かぶことは何かとの質問に対して学生が「かわいそう」という意見が出ました。患者様からは当たり前と感じられることかもしれませんが、同じワークショップにいた医療従事者は他のことを頭に浮かべており、その言葉を聞いて、第一に患者様側の視点に立ったことを考えられなかったことにショックを覚えたそうです。

私たちが常に患者様の気持ちになって医療を行っていくことが大切なことだと改めて感じさせられる講演会でした。



医師の配属・異動・退職

新規配属医師

5/1 付【4/2～5/1】

松下 達彦
(消化器)

川崎医科大学
平成5年卒

林 武雅
(消化器)

昭和大学
平成14年卒

和田 祥城
(消化器)

和歌山県立医科大学
平成14年卒

児玉 健太
(消化器)

新潟大学
平成15年卒

濱崎 七重
(呼吸器)

高知大学
平成15年卒

昇進昇格・兼任講師等の採用につきましては、この欄に掲載致しません。ご了承ください。

異動・退職医師

4/30 付【4/1～4/30】

【退職】

大橋 正和(外科)
岡林 宏明(循環器センター)

診療統計

2005年3月統計データ()内は1日平均

外来患者数 31,014人(1,192.8人)、**入院患者数** 18,444人(595.0人)、**救急車搬送件数** 510人(16.5人)、**手術件数** 492件(22.4件)

鈴木 浩介 昭和大学卒業
6月 麻酔科
7月 循環器センター(内)

はじめまして。この度、この昭和大学横浜市北部病院で臨床研修を行うこととなりました昭和大学出身の鈴木浩介と申します。体は小さいですが、大学時代は柔道部に所属していました。まだ幼いころ入院し、手術を受けたことがきっかけで医師という職業にあこがれ、それ以後、今日まで多くの方々に支えられてここまで来ることができました。そういった方々の期待に応えるためにも、この研修の2年間で色々なことを学び、それを患者様のために役立て、できうる限り多くの人々を幸せにできるよう、努力していきたいと思っております。まだまだ若輩者で、皆様にご迷惑をかけることも多々あることとは思いますが、ご指導のほどよろしく願いいたします。

曾我 真弓 川崎医科大学卒業
6月 総合内科
7月 麻酔科

川崎医大出身の曾我真弓です。出身は京都府宇治市です。大学は岡山県にあり何も遊ぶところもないようなところで大学時代を過ごしました。わりとのんびりとマイペースなほうなので、周りの方々にご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、他の同期の研修医たちや上の先生方等がいい刺激をうけながらやっていけたらな、と思っています。

本格始動してまだ1週間くらいで、今のところまだまだポリクリの延長みたいな部分が多いという印象です。でも本当に少しずつではありますが、オーダーのやり方一つにしても、だんだんとできることが増えてきているように思います。

将来進みたい科はまだ決めておりませんが、患者さんに話しかけられやすい雰囲気医師になりたいです。よろしく願いします。

佃 重男 東邦大学卒業
6月 外科
7月 同上

東邦大学出身の佃重男です。2年間この北部病院で研修させていただくことになりました。この病院の最初の印象は、挨拶の習慣が広く根付いていて、患者さんだけでなくスタッフにとってもよい環境であると感じました。この恵まれた環境のもとまずは社会人としての自覚を持って、そして医師として必要な基本的な診察、検査手技を身に付け、診断、治療に至るまでの論理的な考え方を学びたいと思います。現在、2年目の先生につきっきりで手とり足とり教えていただいています。

正直なところ、1年違うだけでこんなに差があるものなのかと驚いています。来年の自分がどれだけ成長しているかわかりませんが頑張ります。先輩スタッフの方々、ご指導よろしく願います。

星本 剛一 昭和大学卒業
6月 麻酔科
7月 循環器センター(内)

臨床研修医1年目の星本です。

現在北部病院で働きだしてから1週間が経ちますが、自分の知識、経験のなさのため、周りのスタッフに迷惑をかけることもたびたびあります。しかし落ち込んでばかりもいられないので、他の22人の研修医と助け合いながら頑張っていきたいと思っています。

いつまでも他人への優しさや謙虚な姿勢を忘れないような医師になりたいと思っていますのでご指導よろしく願います。

宮本 諭 聖マリアンナ医科大学卒業
6月 循環器センター(内)
7月上旬 緩和ケア
下旬 画像診断

一度は必ず誰もが体験する国試合格発表当日の、何とも言えない余韻を残したまま始まった初期臨床研修。6年間ひたすら勉強、実習、そして部活に追われた生活から一転して、社会人としてのスタートを歩みだしました。国家試験であれほど身につけたはずの知識が現場では全くといっていいほど使えない、と感じる研修医は僕以外にもいることと思いますが、今はやっと自分の人生が開けたという実感を持つことができます。病棟ではわからないことだらけで、ろくに採血すらまともにできない不甲斐なさを持ちつつ、看護師の方に質問されるたびに緊張感が走る毎日ですが、患者さんだけでなく同じ職場で働かれるたくさんの方々とともに、挨拶から始まる一日一日を大切に勉強していきたいと思っています。

吉田 孝子 昭和大学卒業
6月 循環器センター(外)
7月 同上

研修医一年生の吉田孝子と申します。

学生時代のんびりと過ごしていた私にとって、研修医としての生活はまだ慣れない日々ですが毎日が新しいことだらけでとても新鮮です。まだ1週間しか経っていないので先生方にも迷惑をかけてばかりですが、頑張りたいと思っています。

1週間の勤務の中で少し分かったことは、医療の現場は本当に多くの職業のスタッフが互いに協力し合っているということです。私もその一員として、医師のみならず他の職種の方々とも仲良く働きたいと思っています。2年間よろしく願い致します。

外来担当表

外来予定は都合により変更する場合がございますのでご了承ください。

平成 17 年 5 月 1 日改訂

松原 英司 昭和大学卒業
6月 消化器センター(外)
7月 同上

静岡県沼津市出身の松原英司です。昭和大学を卒業しました。現時点で臨床での研修が始まって1週間程が経ちました。とにかくわからないこと、できないことばかりで、学生気分が抜けきらず、正直一人の責任ある医師であるという自覚をしっかりと持てない時もありました。

これからはそうではなく、知識や技術が未熟でも、患者さまの命を預かる責任ある医師として真剣に質問し、勉強し、練習し、患者さまと接し、医師としての基本的な態度を早く身に付けなければと今は焦っています。精一杯頑張りますので、何卒よろしくお願い致します。

東 瑞貴 東邦大学卒業
6月上旬 画像診断
下旬 緩和ケア
7月 総合内科

はじめまして、東邦大学出身の東瑞貴と申します。この度2年間北部病院で研修することになりました。簡単に自己紹介をさせていただきますと千葉県出身の26歳、高校時代はテニス部、大学時代は野球部に所属しておりました。趣味はサイクリングです。将来の目標はスポーツ医学を専攻し、病気に対する治療だけではなく、たくさんの方の健康維持・増進に役に立ちたいと考えております。そのために北部病院の3つの理念と患者様にとって過ごしやすい環境はどのようなものかを十二分に学び、一日でも早く信頼される医師になりたいと心がけております。今現在は仕事に対する不安が大きいのですが誠実・謙虚・努力という精神を持って、これから精一杯、医療の現場に向かって行きたいと思っておりますのでご指導のほどよろしくお願い致します。

簡野 桂子 昭和大学卒業
6月 救急センター
7月 同上

この度、昭和大学横浜市北部病院で2年間研修させて頂く事になりました簡野桂子と申します。この2年間で諸先生方からいろいろな事を学ばせて頂くかと思っています。将来、何科に進むかはまだ悩み中ですが、この2年間で笑顔や初心を忘れずに出来る限りの事を吸収していきたいと思っております。

最初は救急から回らせて頂きます。今は何も分からない白紙状態ですが、諸先生方、また、病院職員の方々、御指導御鞭撻宜しくお願い致します。患者さまには、研修医として精一杯がんばっていきこうと思っておりますので、成長していく過程をあなたのかい目で見守って下さると嬉しいです。宜しくお願い致します。

山口 晃 東邦大学卒業
6月 救急センター
7月 同上

初めまして、東邦大学出身の山口 晃と申します。実家が中川駅前が開業しており、都筑区に住んでからそろそろ10数年になります。中学、高校と都筑区内の公立校でありましたので、これを生かして地域医療に貢献していきたいと思っています。

この原稿を書いている時点では、オリエンテーションが終了して患者様と接するようになってから、まだ1週間ほどしか経っていませんので、まだまだ不安と緊張がかなり強く、失敗も多い毎日です。2年間の研修でどこまで成長できるかわかりませんが、精一杯努力していくつもりですので、技術的にも精神的にも基だ未熟な私ですが、御指導の程よろしくお願い致します。

池田 賢一郎 埼玉医科大学卒業
6月 総合内科
7月 麻酔科

みなさん始めまして、埼玉医科大学出身の池田賢一郎と申します。現在総合内科をローテーションしております。当面の目標といたしましては、カルテ記載を始めとする基本的手技を可能な限り早期に習得し、いち早く医療スタッフの皆様方のチームの一員として認められるようになることです。そのために日々自己研鑽を怠らず、臆することなくスタッフの輪の中に飛び込んでいけたらと考えております。将来的には、現在専行していきたい科を決めかねている状況ですので、プライマリ・ケアの勉強はもちろんのこと、自らの進むべき道を見定めることにも重心を置き、有効にこの2年間を活用していきたいと思っております。

若輩者ではございますが、2年間ぜひ皆様かわいがってくださいますよう、よろしくお願い致します。

真井 博史 聖マリアンナ医科大学卒業
6月 救急センター
7月 同上

国家試験の合格発表から約1ヶ月。研修医としての毎日には慣れましたが、未だに医師としての仕事に慣れることができません。日々指導医の諸先生方にご迷惑をおかけしています。

僕が研修先に北部病院を選んだのは、ハイテクな電子カルテに目がくらんだわけではなく、病院見学の時に田口院長から聞いた、「常に心こもる病院であり続ける」というのは、言うは易く、行うは難い、大変な理念だと思っております。だからこそ、それを掲げる北部病院で、医師としての基本姿勢を身につけたいと思えました。まだカルテの操作もままなりません、2年後には立派な医師になれるように頑張ってください。

	月		火		水		木		金		土
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前
呼吸器センター	医局員(初再診)	医局員(初診)	鹿間裕介(初診)	医局員(再診)	医局員(初診)	医局員(初診)	鹿間裕介	神尾義人(再診)	医局員(初)	医局員(再診)	医局員(初診)
		笠原慶太(再診)	松田正典(初診)	大塚和朗(初診)	中神和清		笠原慶太(初再診)	笠原慶太(初診)	笠原慶太(初再診)	大塚和朗(再診)	
	北見明彦(再)		中島宏昭(初)				医局員(初)	松田正典(再)	中島宏昭(再)	中島宏昭(再)	
消化器センター	林 武雅	林 武雅	田中淳一		請川淳一	請川淳一	井上晴洋	井上晴洋	大塚和朗	大塚和朗	土曜初診1
	小林泰俊	小林泰俊	大塚和朗	大塚和朗	和田祥城		出口義雄	永田浩一	為我井芳郎		日高英二
	春日井尚		加藤博久		下田 良	下田 良	笹島圭太	笹島圭太	鎌西 亮	鎌西 亮	里舘 均
	佐藤嘉高(第2,4)	佐藤嘉高(第2,4)	櫻田博史	辰川貴志子	岩下方彰(第1のみ)		河口剛一郎	山村冬彦	大前芳男	大前芳男	
	山村冬彦	山村冬彦	工藤進英	大森靖弘	石田文生		櫻田博史	新谷 隆	遠藤俊吾	遠藤俊吾	土曜初診2
							工藤進英(特殊診)				
循環器センター	緒方信彦	中島邦喜	落合正彦		小原千明	岡田良晴	荒木 浩		芦田和博	加藤源太郎	医局員
										西巻博(第3のみ)	
精神神経科(初診)	工藤行夫		吉益晴夫		秋元(第1)伊川(第2-5)		秋元洋一		西岡玄太郎		工藤謙太郎
精神神経科(再診)	伊川太郎		秋元洋一		西岡玄太郎		吉益晴夫		工藤行夫		松丸憲太郎
精神神経科(再診)	池澤 聡		鄭 英徹		山本英樹		長井友子		青山 洋		小城幸乃
精神神経科(再診)					工藤謙太郎						
精神神経科(再診)			医局員	松丸憲太郎(物忘れ外来)		松丸憲太郎(物忘れ外来)	医局員		医局員		医局員
内科(緩和ケア)											中村明央
内科(23-2)	山田真帆(内科消化器)	大野恭史(一般内科)			菊嶋修示(循環器不整脈)	菊嶋修示(循環器不整脈)			菊嶋修示(循環器不整脈)		菊嶋修示(循環器不整脈)
内科(23-3)	衣笠えり子(内科腎臓)	高橋 健(内科腎臓)	衣笠えり子(内科腎臓)		衣笠えり子(内科腎臓)	衣笠えり子(内科腎臓)	坂下暁子(内科血液)	坂下暁子(内科血液)	大野恭史(一般内科)	川崎仁志(内科神経)	医局員
内科(23-5)	坂下暁子(内科血液)	坂下暁子(内科血液)	福井俊哉(内科神経)	福井俊哉(内科神経)	三代川章雄(内科消化器)	福井俊哉(内科神経)	福井俊哉(内科神経)	福井俊哉(内科神経)	福井俊哉(内科神経)	福井俊哉(内科神経)	三代川章雄(内科消化器)
内科(25-1)	裨田宗太郎(内科神経)			中山文義(腎)(第1火休診)	裨田宗太郎(内科神経)		滝西安隆(一般内科)				滝西安隆(一般内科)
内科(25-2)		渡邊浩之(一般内科)		渡邊浩之(一般内科)	木村 聡(内科・感染症)						渡邊浩之(一般内科)
内科(25-3)	田口 進(内科消化器)		田口 進(内科消化器)	田口 進(内科消化器)			田口 進(内科消化器)		田口 進(内科消化器)		田口 進(内科消化器)
内科(25-5)	荻原 徹(糖尿病、内分泌)		嶋田 顕(内科腫瘍)		荻原 徹(糖尿病、内分泌)	嶋田 顕(内科腫瘍)	嶋田 顕(内科腫瘍)	嶋田 顕(内科腫瘍)	荻原 徹(糖尿病、内分泌)	富田高重(第1内科消化器)	荻原 徹(糖尿病、内分泌)
内科(25-6)		三上哲弥(内科消化器)	三上哲弥(内科消化器)		山本真寛(一般内科)	緒方浩顕(内科腎臓)	山本真寛(一般内科)	三上哲弥(内科消化器)	緒方浩顕(内科腎臓)		緒方浩顕(内科腎臓)
内科(25-7)		辻 正富(糖尿病、内分泌)	辻 正富(糖尿病、内分泌)		伊藤英利(内科腎臓)	辻 正富(糖尿病、内分泌)	辻 正富(糖尿病、内分泌)	辻 正富(内科腎臓)	伊藤英利(内科腎臓)		辻 正富(糖尿病、内分泌)
小児科	野中善治	神経外来 予防接種	梅田 陽	乳児検診 フォローアップ 外来	北澤重孝	心臓外来 腎臓外来	野中善治	成育外来 フォローアップ 外来	梅田 陽	乳児検診 フォローアップ 外来	医局員
小児科	曾我恭司		曾我恭司		梅田 陽		曾我恭司		京田学晃		医局員
小児科	高野忠将		野中善治		京田学晃	心理相談	松岡 孝	心理相談	高野忠将		医局員
小児外科		杉山彰英		大橋祐介		五味 明		大橋祐介		五味 明	杉山彰英(奇) 真田 裕(偶)
皮膚科(初16-3)	宋 寛傑		濱口太造		島田洋子		濱口太造		宋 寛傑		医局員
皮膚科(再16-1)	濱口太造	松村卓美	宋 寛傑	濱口太造	濱口太造	松村卓美	島田洋子	島田洋子	島田洋子	島田洋子	
皮膚科(再16-2)	松村卓美	外科手術	佐々木雅美	外来手術	佐々木雅美	外科手術	松村卓美	外来手術	佐々木雅美	外来手術	
外科	中村明央		新井一成		新井一成		新井一成		中村明央		中村明央(奇) 新井・山崎(偶)
外科					山崎智巳		福成信博(第1木)	井関雅一(偶)	成原健太郎	岩波正英(偶)	黒井克昌(乳腺外来専科のみ) 大塚(奇) 神崎(偶)
形成外科	大塚尚治		【手術日】		大塚尚治		【手術日】		神崎温子		
脳神経外科(初再診)	池田尚人	(診断書外来)	医局員		広田暢夫	退院後外来	畑山和己		広田暢夫		畑山和己(奇) 池田・広田(偶)
脳神経外科(再診)	畑山和己	予約のみ	医局員		池田尚人		広田暢夫		池田尚人		池田尚人(奇)
整形外科	医局員(初診外来)	医局員	西山嘉信	医局員	逸見範幸	医局員	西山嘉信	医局員	逸見範幸	医局員	医局員
整形外科	松久孝行	ギブス診 予約のみ	古槻正洋		松久孝行	ギブス診 予約のみ	古槻正洋		八木貴史		医局員
整形外科	川崎恵吉		齋藤 元		八木貴史		川崎恵吉		齋藤 元		
産婦人科初診(12-7)	鈴木紀雄(奇) 安藤直子(偶)		高橋 諄(中山 健)		高橋 諄(御子柴尚郎)		小塚和人(近藤哲郎)		小川公一		医局員
産婦人科産科(12-1)	近藤哲郎		小川公一		栗城亜具里		安藤直子		鈴木紀雄		
産婦人科産科(12-6)	高橋 諄 中山 健			特殊診 予約のみ			御子柴尚郎			特殊診 予約のみ	
産婦人科婦人科(12-8)	小川公一		鈴木紀雄	特殊診 予約のみ	近藤哲郎		高橋 諄		安藤直子	特殊診 予約のみ	医局員
産婦人科婦人科(12-6)			中山 健		御子柴尚郎				栗城亜具里		
泌尿器科(初診)	佐々木春明	椎木(検査) 予約のみ	椎木一彦		鈴木俊一	深澤(検査) 予約のみ	青木慶一郎	鈴木俊一(再診)	島田 誠	菅原 草(再診)	医局員
泌尿器科(再診)	島田 誠	島田(女性外来) 予約のみ	深澤 立		青木慶一郎	青木(検査) 予約のみ	椎木一彦		佐々木春明	佐々木春明(男性外来予約)	
泌尿器科(検査)				特殊検査 予約のみ		特殊検査 予約のみ		特殊検査 予約のみ		特殊検査 予約のみ	
眼科	玉井裕子	特殊診(玉井)	小池正直	特殊診(中村)	玉井裕子		小池正直	特殊診(小池)	玉井裕子		小池正直(奇) 中村 徹(偶)
眼科	中村 徹		中村 徹	特殊診(小倉)	小倉寛嗣		小倉寛嗣	特殊診(小倉)	中村 徹	特殊診(中村)	
眼科	岡田法子	特殊診(岡田)	岡田法子	特殊診(岡田)	岡田法子	特殊診(岡田)	小倉寛嗣	特殊診(岡田)	小倉寛嗣	特殊診(中村)	小倉寛嗣(偶)
耳鼻咽喉科13-2	門倉義幸	腫瘍甲状腺外来 予約のみ	池田尚弘(初診)		医局員(初診)	東洋医学外来 予約のみ	柳・徳丸(初診)	いびき外来 予約のみ	医局員(初診)		医局員(初診)
耳鼻咽喉科13-2	徳丸岳志(再診)			レーザー外来 予約のみ			門倉義幸(再診)				
耳鼻咽喉科13-3	柳裕一郎(再診)		柳裕一郎(再診)	小児外来 予約のみ			池田尚弘(再診)				
耳鼻咽喉科13-5	油井健史						補聴器外来K 予約のみ	補聴器外来 予約のみN	歯科装具 予約のみ		

放射線治療の外来日は、月火木金： 馳澤憲二です。

平成17年度臨床研修医紹介

昨年度は一抹の不安を感じながら始まった臨床研修医制度でありましたが、最初はお客様のような1期生も1年経過した現在、貴重な戦力として見事に变身し、16名が2年次を迎えています。

当院は開設5年目を迎えたばかりで臨床研修施設としては歴史が浅く、スタッフの構成などから充実した研修体制とは言い難い面もありましたが、重みのある屋根瓦が一段築きあげられた感があります。2期生は23名を数えますが、今年度は指導医の我々も経験を積んだことや、身近に手本となる先輩研修医に接することが可能となり、より恵まれた環境で研修できるようになりました。

臨床研修で何を学ぶのか、特定の専門分野にらず、基礎の構築にあります。基礎があれば応用は易しい。基礎の根幹はコミュニケーション能力を獲得することであり、患者さん・指導医・看護師・技師・同期研修医のみならず、周囲の全ての人々と話す・聞く・頼むなどの態度・姿勢に、その都度、ベストを尽くすことが大切であります。あいさつ励行!!(基礎中の基礎)

外科系臨床プログラム責任者 新井 一成

表の見かた

研修医 顔写真	研修医氏名	出身大学
		6月研修先診療科 7月研修先診療科
自己紹介文		

大山 伸雄	埼玉医科大学卒業 6月 呼吸器センター(内) 7月 同上
研修医1年目の大山です。実家があざみ野で昔から親しんだこの土地で働ける事にとっても喜んでます。医師となって、業務も始まったばかりですが、私はこの北部病院がとても好きです。私には北部病院で働いていらっしゃる諸先輩方の姿がとても輝いて見えます。私も早くその一員になり、北部の顔と言われるような医師になりたいと思います。 まずは研修期間の2年間は、何ごとにも興味を持ち挑戦して行きたいと思っています。知識不足や経験不足から色々とお迷惑もかけてしまうと思いますが、どうぞ宜しくお願いします。 最後になりましたが、母が中川で金の星幼稚園の園長をしています。幼稚園入園の予定のあるお子さんのいらっしゃる方は、どうぞ金の星幼稚園をも宜しくお願い致します。	

小野 樹郎	昭和大学卒業 6月 総合内科 7月 同上
昭和大学卒の研修医1年生の小野と申します。4月25日から、病棟での本格的な仕事がようやく始まりました。毎日が充実している証拠なのか、一日一日がとても長く感じます。まだたった3日しか経っていないとは到底思えません。 国家試験を通過したとは言っても、実際に現場で知識を生かせるのかと問われると、まだまだ私たちは本当に未熟です。指導医の先生方やスタッフのみなさんから多くのことを吸収できるように、日々を大切に、少しずつでもみなさんのお役に立てるように頑張っていこうと思っています。よろしくお願い致します。	

安藤 亮太郎	昭和大学卒業 6月 総合内科 7月 同上
昭和大学出身の安藤亮太郎です。医師としてのスタートをここ北部病院で切ることになりました。患者様に接する時の態度や言葉の選び方など社会人として学ぶこと、採血や様々な手技など医師として学ぶこと、これから学ぶことの多さに期待と不安でいっぱいです。そんな中、4月末より病棟業務が始まりました。今はまだ電子カルテすら満足に使えない未熟な私ですが、一つ一つの行動に伴う責任の重みを感じながら日々過ごしています。これから患者様やスタッフの方々から色々なことを学び、成長していきたいと思います。 この2年間の研修を通じてより多くのことを学び、患者様はもちろんのこと、病院のお役に立てるよう頑張っていきたいと思えますので、どうぞ宜しくお願いします。	

小澤 俊一郎	聖マリアナ医科大学卒業 6月 消化器センター(内) 7月 同上
初めまして、研修医の小澤俊一郎です。 出身地は山梨県甲府市、出身校は聖マリアナ医科大学です。学生時代は硬式テニス部に所属しておりました。 今回昭和大学横浜市北部病院で初期臨床研修をさせていただけることになりまして、誠に光栄に思っております。現在は消化器センター(内科)をローテーションしております。研修開始から1週間が経とうとしておりますが、素晴らしい環境の中にも自分から学ぶ姿勢を忘れずに、なるべく早く仕事に慣れ、患者さまのお役にたつことができるようになるよう努力していきます。最後に2年間の研修が終わった時に昭和大学横浜市北部病院で研修して良かったと思えるように頑張っていきたいと思えます。どうぞよろしく申し上げます。	

梶原 大樹	昭和大学卒業 6月 救急センター 7月 同上
臨床研修医として現場に配属されてからまだ一週間もたっておりませんので、右も左もわからない状態で緊張の連続ですが、周りの皆様のおかげでなんとか支えられています。 これからも日々の反省、感謝、そして謙虚な気持ちを忘れず、スタッフの皆様と一緒に頑張っていきたいと思えます。どうぞ宜しくお願い致します。	

齋藤 佑介	昭和大学卒業 6月 救急センター 7月 同上
はじめまして、昭和大学出身の齋藤佑介と申します。各診療科での研修が始まって数日、覚えなければならない仕事が山のようにあって、先生方や看護師さん、それに患者さまからいろいろなお話を教えているうちに、あっという間に毎日が過ぎていきます。 私は将来何科に進むかまだはっきりと決めていないのですが、私のような者にとっては2年間でいろいろな科を回って研修することができる現在の臨床研修制度はとてもよい制度のように思います。2年間という限られた時間の中で少しでも多くのことを学び、その中で将来専門とする分野を見定めることができればと思っています。まだまだ未熟者ですが、患者さまにとって信頼できるいい医師になれるようこれから努力を重ねていく所存です。皆様よろしく願いいたします。	

竹島 亜希子	昭和大学卒業 6月 消化器センター(内) 7月 上旬 画像診断 下旬 緩和ケア
神奈川県横浜市出身の竹島亜希子です。 4月から研修医として昭和大学横浜市北部病院で研修させていただくことになりました。私は生まれてからこれまでずっと横浜に住んでおり、この土地にとっても愛着があります。この病院で社会人として、医師としてのスタートを切ることができ、大変うれしく思っております。 まだまだ知識も経験も少なく、患者さんや周りの先生方、スタッフの方たちにご迷惑をおかけすることもたくさんあると思います。1日でも早く病院の仕事に慣れ、皆さまに信頼される医師になれるよう、自分が何をすべきか、自分に何ができるかを考えながら日々精進して参りたいと思えます。これからもご指導よろしく願いいたします。	

野澤 仁美	昭和大学卒業 6月 消化器センター(外) 7月 同上
昭和大学出身の野澤仁美と申します。3週間のオリエンテーションの期間を経て、いよいよ臨床の現場に出ることになり、今は期待と不安でいっぱいです。 6年次に北部病院で1ヶ月間実習させていただき、病院全体の雰囲気よさに惹かれて北部病院での研修を決めました。将来は常に患者様の立場に立って物事を考えられる医師になりたいと思っています。そのためにはこの2年間の研修では、まず患者様をみる目を養いたいと思います。 知識も技術もない未熟な私ですが、精一杯努力し、できるだけ多くのことを吸収していきたいと思っております。皆様どうぞよろしく願いいたします。	

坂本 篤紀	昭和大学卒業 6月 救急センター 7月 同上
昭和大学出身の研修医一年の坂本篤紀です。三週間のオリエンテーションも終わりついに病棟での仕事が始まりました。電子カルテの使い方もよくわからず何がどこにあるかもわからない状態で大変な毎日ですがスタッフのみなさんに助けられながら何とかやっております。 学生時代は楽しむことばかり考えておりましたが、社会に出たからには自分の行動に責任を持ち一生懸命頑張ろうと考えております。まだまだ分からないことだらけですが精一杯頑張りますのでご指導のほど宜しくお願い致します。	

田山 愛	東海大学卒業 6月 呼吸器センター(外) 7月 同上
「おはようございます。朝の採血をさせて下さい…。」 この言葉から、私と患者さまとの1日が始まります。 はじめまして。東海大学からきました田山愛です。4月から社会人となり、研修医として、ここ昭和大学横浜市北部病院にて研修することになりました。 病棟では、まだ日も浅くご心配をおかけしていますが、22名の同期と共に切磋琢磨しながら充実した日々を送っています。少しでも患者さまのお役に立てるよう、これから努力して参りますので、よろしく願いいたします。	

橋本 信	昭和大学卒業 6月 消化器センター(内) 7月上旬 画像診断 下旬 緩和ケア
皆様はじめまして、研修医1年目の橋本信と申します。 昭和大学横浜市北部病院でお世話になって1ヶ月経った今も、自分の未熟さを不甲斐なく思う毎日が続いておりますが、そんな中でも小さな充実感を少しずつ得ながら過ごしております。 僕のつたない技術と知識で貢献できる事はそう多くないと思いますが、それでも笑顔を見せてくれる患者さんがいるならば、うつむくことなく日々得られた経験を大切に、さらなる上を目指していきたいと思えます。 こんな僕ではありますが、早く一人前の医師として、少しでも周りの皆様のお役に立てるよう頑張っていきたいと思っておりますので、これからも熱いご指導のほど宜しくお願いします。	